



「世の中に不要な人やものは何もない」

PROFILE

事業類型:福祉事業所(就労移行・放デイ)

代表者/泉俊雄 社員/12名 利用者/20名(就労移行/10名・放課後等デイサービス/10名)

事業概要

就労移行・放課後等デイサービス 援農:メロン等 自給栽培:露地野菜・ハーブ等

農福連携をはじめたきっかけ

泉氏は心の回復には食が大事であると考え、化学肥料・農薬による農業に疑問を抱いていた。前職で発酵食品研究を行っていた支援員を経由し雑草を活かした「菌ちゃん農法」の吉田俊道氏(菌ちゃんファーム代表)の考えに共感し、自然栽培を実践。また、大分県の循環農法も参考に。

沿革(画期区分)

平成24年(2012) 就労移行支援事業所開所

元造園業の支援員の尽力でガーデニングやDIYの作業が始まる

発酵食品の研究をしていた支援員により、柿酢や甘酒塩麹など発酵食品の試作も始まった

平成25年(2013) 自然栽培に着手

平成28年(2016) 池田地区から徳王地区へ移転 その直後に熊本地震発災 炊き出し等で活躍

令和2年(2020) 農山漁村振興交付金を活用し「農が福祉と人をつなぐ講座」をオンライン等で開講

オルタナのマッチングストーリー

泉氏本人がうつ病を発症した際、竹林整備により回復した自身の経験を活かし、精神障害者の社会復帰を支援する就労移行支援事業所を開所した。

施設近隣の畑でハーブや露地野菜を自然栽培し、事業所の一汁一菜の昼食で自家消費している。移行支援の訓練として援農や離島留学プログラム「湯島リポートキャンプ」に取り組み、そこで農業に興味を抱いた参加者の就農や農家への就職を支援している。

放課後等デイサービスのアルバイトに来ていた野口氏のご実家がメロン農家であった。そのご縁からメロンの新聞かけや玉吊し作業といった援農に行くようになった。湯島リポートキャンプの参加者が島内のかすみ草農家に、援農に行っていた野口農園に、それぞれ雇用されるなどのマッチング成果が生まれている。



■ オルタナのマッチングポイント

1 マッチングの形態

対象を精神障害者(発達も含む)に絞った就労移行支援という2年間限定の制度で一般就労をめざす訓練に援農を取り入れ、関係する個人農家と利用者をマッチングさせて雇用を実現させている。

2 その発展過程

開所時に支援員の得意分野を活かした訓練メニューを試行する中で、農業・DIY・食品加工等を実践。試験的に自然栽培を取り入れた規模拡大を将来展望としている。過疎化が進む地域の空き家等にB型事業所とグループホームを設立し、住民と協働し地域文化継承など地域課題を解決するコミュニティ構築を目指している。農業とITを柱としWeb・SNS(フォロワー1100人)等を活用し、今後は農林産品の販売などICTを活用した事業展開も検討中。

3 行政による財政的・人的支援

第1回湯島リポートキャンプでは、熊本県助成金を活用。第2回目は県のクラウドファンディングを活用。2020年のオンライン講座では農水省補助事業を活用中。

4 農業関係団体・福祉関係団体との連携形態

野口農園などオルタナの活動に共感する複数の個人農家との繋がり生まれている。リポートキャンプの社会復帰プログラムは、県内の医療機関や相談支援事業所から注目されている。地元メンタルクリニックからの信頼も厚く、利用者を紹介されることもある。

5 マッチングの対象

地域:熊本市花園地区・上天草市湯島

品目:自然農法による季節野菜の露地栽培・ハーブ栽培

援農:メロン農家

農業・漁業体験:

わかめ収穫・鯛釣り・かすみ草・紅はるか栽培(湯島リポートキャンプにて)

利用者:精神・発達障害等

6 コーディネーターの育成方法

泉氏の理念に賛同し、将来農業で独立したいという支援員が入職し、援農にはその支援員と利用者が参加。泉氏の価値観に共感するフォロワーがオルタナの活動をサポートしており、熊本地震の際は寄付などが多数寄せられた。



オルタナのネットワークと取り組み

